

I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 62

Quincy Jones 【クインシー・ジョーンズ】

～ジャンルを超えて活躍し続ける正真正銘の音楽界のレジェンド～



Photo : Quincy Jones "Strike Up The Band 1959-1961" (Jasmine)

Profile

1933年3月14日、米国イリノイ州シカゴ生まれ。本名は Quincy Delight Jones Jr.。小学生の頃からトランペットを習い、後にゴスペルを歌う等、幼少期より音楽に携わる。10歳の頃にシアトルに転居。レイ・チャールズとバンドを結成し活動。51年にパーカー音楽大学を卒業後、トランペッターとしてライオネル・ハンプトン楽団に参加。アレンジャーとしての才能も発揮し、デューク・エリントン、カウント・ベイシー等のアレンジを手掛ける。50年代前半にNYに進出。57年にパリへ渡り、作曲・音楽理論等を学ぶ。64年にマーキュリー・レコードNY支社の副支社長に就任。ジャズだけでなく、映画やTV音楽を手掛け、自己名義のビッグ・バンドを結成する等、才能を活かし大活躍する。また、マイルス・デイヴィスやフランク・シナトラ等のプロデュースを手掛ける。69年にA&Mと契約し数々の名盤をリリース。80年代に入ると自己レーベル「クエスト」を設立。81年に発表したアルバム『デュード』に収録された「愛のコリーダ」はポップ・チャートで大ヒットを記録し、グラミー賞で12部門にノミネート。82年全世界で史上最高の売上を記録したマイケル・ジャクソンのアルバム『スリラー』のプロデュースを手掛ける。85年チャリティー曲「We are the World」のプロデュースも手掛ける。99年クインシー、ポップ・ゲルドフ、U2のボノ等と世界の貧困救済を唱えるジュビリー2000の運動に参加。2006年北京オリンピック組織委員会の芸術顧問に任命されるが、ダルフル紛争に関する中国政府の姿勢に抗議して辞任。2008年度のグラミー賞レコーディングアカデミー50回大記念の大使に任命。87歳を迎えた現在もヒット・メーカー&プロデューサーとして活躍中。

QJ's Great Album

『私の考えるジャズ』『クインテッセンス』『ソウル・ボサノヴァ』『ウォーキング・イン・スペース』をはじめ、この場では紹介仕切れない数多くの名盤を残し続けている。

ハリー・アーノルド率いるオーケストラとの共演アルバム



ビッグ・バンド=ジャズ！
クインシー・ジョーンズ
(Octave) [Import CD]

ベニー・ベイリー (tp)、オキ・ペルソン、ジミー・クリヴランド (tb)、アルネ・ドムネラス (as)、ベンクト・ハルベルク (p)、他

- クインシーズ・ホーム・アゲイン
- ザ・ミッドナイト・サン・ネバー・セツツ
- チェロキー
- カウント・エム (他、全19曲)

クインシーにとつて初のレギュラービッグ・バンドの熱演を取めた作品

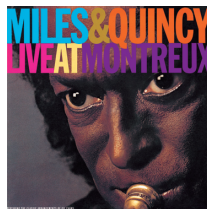


ザ・バース・オブ・ア・バンド
クインシー・ジョーンズ
(Essential Jazz) [Import CD]

クインシー・ジョーンズ (cond, arr)、ハリー・“スウィーツ”・エディソン、アーニー・ロイヤル、ジョー・ワイルダー (tp)、他

- タキシード・ジャンクション
- シンクベータッド・クロック
- チョー・チョー・チョビギ
- ザ・ハックルバック (他、全24曲)

クインシーのマイルス・デイヴィス・ギル・エヴァンスとの共演アルバム



ライブ・アット・モントルー
マイルス・デイヴィス&クインシー・ジョーンズ
(ワーナーミュージック・ジャパン: WPCR-10035)

マイルス・デイヴィス、マイルス・エヴァンス、ルー・ソロフ、ウオレス・ルーニー、ジョン・ダース (tp)、他

- クロード・ノブスとクインシー・ジョーンズによるイントロダクション
- パップリシティ
- マイルス・アヘッド・モデル (他、全16曲)

1958年にスウェーデン・ストックホルムでレコーディングされた作品。クインシーがスウェーデンの名手ハリー・アーノルド率いるオーケストラと共演したアルバムに、ボーナストラック10曲を追加して収録。ハリー・アーノルドのオリジナルやクインシーのオリジナル「ザ・ミッドナイト・サン・ウィル・ネバー・セツツ」、ホレス・シルヴァー作曲の「ルーム608」等、全19曲に渡ってクインシーのアンサンブルやアレンジが光り輝く。

1956年に録音した『私の考えるジャズ』から3年後、クインシー初のレギュラービッグ・バンドによる熱演を収録。錚々たる顔ぶれが揃い、『ザ・バース・オブ・ア・バンド』と未発表曲を取めた『ザ・バース・オブ・ア・バンド Vol.2』から1959年6月分まで全24曲を録音順に収録。抜群のスイング感&グルーブ感にクインシーのアレンジもお見事で、当時のビッグ・バンド・ジャズの新時代を予感させる快作。1959年録音。

クインシーがプロデュース&コンダクトを手掛けたマイルス・デイヴィス・ウィズ・ギル・エヴァンス・オーケストラ&ジョルジュ・グルンツ・コンサート・バンドとの共演作品。録音は1991年7月8日。この録音から82日後にマイルスは天に召されることになるが、正に帝王マイルスの最後の勇姿を捉えた傑作。「パップリシティ」「マイルス・アヘッド」「ブルース・フォー・パブロ」の他、「サマータイム」等のクールなサウンドとアレンジは秀逸。

米音楽界の宝、巨匠、親分、ボス…

若かりし頃の佇まいは、ボクシング界の英雄で元世界チャンピオンのシュガー・レイ・レナードのよう。クインシーという天才・ジャクソンの『スリラー』やUSAフォー・アフリカ「ウィ・アーザ・ワールド」のプロデューサー、自身の大ヒット・ナンバー「愛のコリーダ」のイメージが強いかもしれないが、1950~60年代のジャズシーンでの活躍は目を見張る。若い頃から大御所との共演やプロデュース、マネジメントで八面六臂の活躍をし続けているが、現在も全米の音楽シーン全体を牛耳っているかのような存在感で、正に国宝級の風格が漂う。

愛のコリーダ

「愛のコリーダ」は1980年にチャズ・ジャンケルが作曲。翌年クインシーがヴォーカルにデュアン（チャールズ・メイ）とパティ・オースティン起用したカバーがディスコ音楽としてヒットした。日本でもオリコン洋楽シングルチャートで12週連続1位を記録し、同年の年間チャート1位の大ヒットとなった。曲名は1976年のフランス・日本合作映画で大島渚監督の『愛のコリーダ』の日本語名から付けられている（「コリーダ」はスペイン語で「闘牛」の意味）。当時はクインシー自身が歌っていると思った人も多いかもしれないが、今聴いても色褪せない名曲。

Jazz Standards (ジャズ名曲列伝) vol.35

~ Goodbye Pork Pie Hat [グッドバイ・ポーク・パイ・ハット] ~

この曲はチャールス・ミンガスが敬愛していた名サクソフ奏者レスター・ヤングを追悼して作曲したバラード・ナンバー。1959年3月15日にレスター・ヤングが亡くなり、約2ヶ月後の5月12日にレコーディングされ、同年ミンガスのアルバム『ミンガス・アー・アム』の2曲目に収録された。ポークパイ・ハットはレスターのトレード・マークだった帽子のこと。ジェフ・ベック、ジョニ・ミッチェル等にもカバーされジャンルを超えて愛され続けている。

★ この名曲が聴けるお薦めのアルバム

- チャールス・ミンガス 『ミンガス・アー・アム』
- ジェフ・ベック 『ワイアード』
- ジョニ・ミッチェル 『ミンガス』
- ジャコ・パストリアス 『バンク・ジャズ: ジャコ・パストリアス・アンソロジー』
- 日野賢二 『JINO』